小規模多機能型居宅介護「サービス評価」　総括表

法人名	社会福祉法人藤雪会	代表者	理事長又木京子
事業所名	小規模多機能型居宅介護ゆったり	管理者	白石理恵子

法人・事業所の特徴	利用者ひとり一人の人格を尊重し、利用者がおのおの役割を持って、安全で安心できる環境のもとで日常生活を送ることができるようなサービスを提供する。

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	人	人	2人	1人	2人	人	9人

項　目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A．事業所自己評価の確認	スタッフ間への説明を丁寧に行う。	朝、夕のミーテイングを大切に情報共有した。	ほぼ適切に自己評価ができていると思われる。	打合せのみではなく、スタッフ会議で利用者のケース検討を行い具体的な把握を行う。
B．事業所のしつらえ・環境	ホームページなどを通して地域への発信に力を入れる。	施設の行事や、運営推進会議の議事録を速やかにホームページに載せた。	環境として、地域と協力関係ができている。また、笑顔でスタッフが常日頃気配りされ安心できる居場所が提供されている。１階にはコーヒーなどのサービスがあり、よい環境となっている。	ホームページ、ゆったり通信やパンフレットなどを用いて、しつらえや環境を伝える。産業医の巡回によるアドバイスをうける。
C．事業所と地域のかかわり	各地域包括支援センターとの関係を広げていく。	包括支援センターへの状況の投げかけや包括主催の研修に参加した。	支援センター職員も施設のお祭りに参加された。 地域の方からの相談は少ないがあった。民生児童委員さん自治会は協力的です。	自治会の行事に参加する。包括主催の研修に参加する。介護のみでなく、障がい、子供など多方面とのかかわりを視野に入れる。 ゆったり行事に参加していただく。
D．地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者と共に計画し、外出の機会を作っていく。	散歩の折に地域の保育園児との交流をまめに持つことができた。	散歩や地域の行事にも参加している。健康管理上での配慮もあり、難しいこともあるが対応されている。	引き続き、自治会、近隣保育園、教会などと交流していく。利用者近隣の民生委員さんと連携する。
E．運営推進会議を活かした取組み	他の小規模多機能型居宅会議の会議内容を知る。必要に応じ取り入れる。	新しい小規模多機能型居宅介護事業所を訪問したり、看護小規模多機能型居宅介護事業所との情報交換を行った。	必要に応じ情報提供している。担当者より月の報告、半期、年間報告を受けている。事例検討は範囲が広く難しい。推進会議の意見を取り入れていると思う。	必要な研修を受講し推進委員に報告し意見を伺う。 災害対策は引き続き推進会議で話し合う。学びの場ともする。

F．事業所の 防災・災害対策	引き続き防災訓練を行い、緊急時の連絡体制を整える。	大雨でダムの放流があり、地震火事以外の水害の知識が必要だった。専門的知識を持つ方から得ることができた。	年３回以上の訓練を行っている。利用時は安心してお任せできる。	１階への避難訓練と３階への垂直避難訓練を行う。引き続き、防災に詳しい方の話をお聞きし、より詳しい知識を身に付ける。 大災害時は、地域の方を受け入れることが、どの程度できるか、法人として検討する。